

平成28年1月18日(月)

老球の細道200

## 自分を驚かせる

会津バスケットボール協会 室井 富仁

カエルを沸騰したお湯に入れてやると、当然のごとく熱くてピョンと飛び出してしまう。次に、ぬるま湯に入れてやると気持ちよく泳ぎまわっていつまでも出てこない。そこで、ぬるま湯を徐々に熱してお湯を沸騰させる。すると熱くなってカエルは飛び出すと思いきやタイミングを逃して飛び出せず、熱湯の中で全身やけどで死んでしまうという。ぬるま湯に浸っていたおかげで、環境が厳しくなっている状況(熱湯)を見失ってしまったのである。私たちもぬるま湯のマンネリ化した日常生活を続けていると、変わらなければいけないタイミング、ブレイクスルーするチャンスを見失ってしまうことがある。

お正月とか月初め、週始め、そして一日の始めの節目節目はそれまでのマンネリ化したぬるま湯の日常生活におさらばをして、心機一転を図るのに好都合である。一日一日がそうありたい。まさに日々新たなり「日新」である。しかし、現実はそううまくはいかない。

新しい年を迎え、五郎丸ポーズで父母の仏壇に祈り初詣の代役とした。私にとって最近のお正月は「もういくつ寝るとお正月♪」から「もういくつ迎えられるかお正月♪」かのようになっている。一時も無駄にできない毎日であるが、「よしやるぞ!」という気持ちも正月から1か月くらいか。毎年2月、3月になる頃からマンネリのぬるま湯の地獄が待っている。マンネリ化した同じことの繰り返しのぬるま湯生活は、カエルだけでなく、向上しよう、もっともっと伸びようとする人間にとって最悪の環境である。

年末のテレビで、世界のカリスマコーチたちが日本の子供たちを指導する時に発する言葉からリーダーシップを学ぼうとする番組が放映されていた。その中で陸上競技の為末選手がハンマー投げ世界チャンピオン室伏選手の言葉を紹介していた。陸上競技の練習は毎日同じことの繰り返しで「自分を驚かす工夫」をしなければマンネリの地獄に陥りモチベーションがさっぱり上がらないという。自分を驚かす工夫がブレイクスルーできるかどうかのカギになると。

この言葉を聞いてまさにわが意を得たり。これといった刺激のない毎日の中で、自分を奮い立たせることができるのはバスケットボールのクリニック活動である。しかしこのクリニックも同じテーマで何度も繰り返していると、指導する私としてはラクなのだが面白みがなくなってくる。私が面白くないと感じているということは、教えられる子供たちや指導者の方々も面白くないと感じているはずだ。

クリニックの準備でメニューを作ったりドリルを考えたりするときに、私自身が驚くように面白くてためになるようなことを考え出さなければならない。子供たちや指導者の方々が驚き、楽しむ姿をワクワクしながら思い描き、クリニック当日が待ち遠しくてしかたがないようにしたいものである。

同じ年末に、ウォルト・ディズニーのドキュメンタリーが放映されていた。ディズニーを代表するキャラクター「ミッキーマウス」の創作は、膨大な数のアニメ映画からのヒントによって創り出されたという。それにあやかり、NBAなどの試合の録画をたくさん観戦し、バスケット以外のことにもアンテナを張り、自分を驚かす出来事を探して創意工夫をする。まだまだ自分を再発見できる刺激的な日々を送りたいものである。